

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版 (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)S2計画	階数	地上19F/地下1F
建設地	名古屋市中区新栄町二丁目1番、2番、13番、14番及び15番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2022年3月21日
敷地面積	3,419 m ²	作成者	
建築面積	2,266 m ²	確認日	2022年6月13日
延床面積	40,144 m ²	確認者	



さい

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.0

☆☆☆☆☆ A: ☆☆☆☆ B+: ☆☆☆ B: ☆☆☆ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 60% 30%

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」が内容を「年一取」的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア=4

Q2 サービス性能

Q2のスコア=4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=3.1

LR のスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=4.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.7

3 設計上の配慮事項		
総合 ・街並み配慮, 広小路通の賑わい創出 ・歩道状空地, 広場状空地, ビロイによる地域貢献 ・建物外皮の熱負荷抑制, 設備システムの高効率化 ・制振構造, BCP対応(緊急排水槽, 非常用発電機)		その他 ・特になし
Q1 室内環境 ・吸音材(タイルペット, DR) ・空調「ローング」(40m毎), 冷暖同時, 加湿除湿機能 ・「ブラインド」, 照明制御(テス1列毎) ・給排気口別方向かつ隔離	Q2 サービス性能 ・階高/天井高/積載荷重, 制振構造 ・コンセプト/機能の明確化を伴う内装/照明計画, パリファリ ・維持管理に配慮(防汚性高い内装, 各トイレSK, ゴンドラ) ・BCP対応設備(緊急排水槽, 非常用発電機)	Q3 室外環境(敷地内) ・街並み配慮, 広小路通の賑わい創出 ・歩道状空地, 広場状空地, ビロイによる地域貢献 ・外構緑化による生物環境の創出/景観形成 ・敷地内温熱環境の向上(日陰形成, 排熱放出10m以上)
LR1 エネルギー ・建物外皮の熱負荷抑制(BPIO.80) ・設備システムの高効率化(BEIO.61) ・効率的運用(基本BEMS, 拡張BEMS)	LR2 資源・マテリアル ・節水(自動水栓, 節水型便器), 雨水利用 ・リサイクル材の使用(ビニルシート, 磁器質タイル, 再生木デッキ) ・有害物質を含まない材料の使用(シーリング, 塗膜防水) ・フロン, ハロンの使用回避(不活性ガス消火剤, ノンフロン断熱材)	LR3 敷地外環境 ・ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減 ・駐輪場, 駐車場, 荷捌き駐車場, 車両出入口配慮 ・光害抑制

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)S2計画

- 使用評価マニュアル:
- 評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				4.2
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.3



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 4.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。